

2016年度の現勢調査の実施

2016年度の現勢調査では、全国にいる聴覚障害教職員が455名ということがわかりました。今年度の退職者が18名ということ踏まえれば、昨年度の448名と比較して、7名増えたこととなります。

新規採用は21名ですが、最近では定年退職後に再任用という形で教育現場に参入することもしばしば見られるようになってきました。雇用の形態も様々にあるようです。

<全体の傾向>

- 今回の調査により、全国のそれぞれの学校において聴覚障害教職員がいることが明らかになりました。ただ、福島県や高知県の場合、聾学校に勤務している聴覚障害教職員はいませんでした。
- 盲学校に勤務する聴覚障害教職員もいました。(昨年度同様)
- 聴覚障害教職員全体の67%が教諭でした。昨年度は70%でしたので、微減傾向にあります。
- 定年退職を迎える前に、退職する人は7名でした。
- 40歳未満の教職員が全体の約7割でした。
- 通常の学校に勤務する聴覚障害教職員の数は微増傾向にあります。
- 地域別に見ると聴覚障害教職員が一番多いのは関東ブロックの163人であり、次いで近畿ブロックの94人でした。
- 県別に見ると聴覚障害教職員が一番多いのは大阪府の52人であり、次いで東京都の41人でした。
- 聴覚障害教職員の男女比は211:229(不明の15人を除く)であり、女性がわずかに多いですが、大きな差はないようです。

- 校長が1人退職し、現時点では聴覚障害教職員の校長は1人となりました。
- 高校(高等部)卒業後、事務として勤務しているので10代の聴覚障害教職員が2人います。